

一人ひとりの夢・思いを大切に 福祉 しなふくニュース

編集人 しなふくニュース編集委員会 発行人 永田 元
発行所 品川総合福祉センター 〒140-0003 東京都品川区八潮5-1-1
電 話 03(3790)4839 法人URL <http://www.shinafuku.com> E-mail info@shinafuku.org

品川福祉保健従事者実践・次第

開 会
開会挨拶
品川介護福祉専門学校

実践・研究発表

特別講義
東京2020パラリンピックについて、
そしてその先の共生社会について
(公財)東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会
パラリンピック統括室係長 大島 明子様

発表者表彰

総括講評
表彰選考委員長
服部 万里子

中延特別養護老人ホーム
最優秀賞 受賞！
(関連記事3面)
右より永田理事長、加藤職員、星名職員、田鎖職員、小野常務



(一) らうんじ

(二) 令和2年度 基本方針・運営方針

(三) 赤い羽根共同募金 会長賞受賞
中延特別養護老人ホーム 実践・研究発表 最優秀賞受賞

(四) サービス向上の取り組み ①中延SC ②八潮南GH

(五) ボランティア紹介 知的障害者移動支援従業者養成研修

(六) 豆知識・しなふくの窓・オレンジカフェ紹介

らうんじ

毎年、桜の花が咲くと日本の春の美しさを感じると共に身が引き締まるような思いがします。

新年度が始まり、皆様それぞれの春を迎えられている頃でしょう。新たな場所ですタートした方は不安な気持ちの方が大きいかもしれませんが、思い返すと新人の頃は、毎日が精一杯、何が正解なのかわからない日々を無我夢中で過ごしていたように思います。今にして思うと、答えは一つではなかったかもしれないのに正しい答えを導き出すとすることしか考えられなかったのは了見が狭かったのでしょうか。ただ、今も昔もそのように模索する日々を積み重ねていく過程こそが大事なのではないかと思います。

複数の事業所を経験していく中で、職員やご利用者に「知った顔」が確実に増えてきました。その知っている顔に出会い、言葉を交わせるようになったことが何より嬉しく、自分自身の糧になっているように思います。新たな場所での挑戦するご利用者、皆さんの春に明るい未来を感じられるような出会いがあることを心よりお祈りします。

八潮中央保育園

施設長 矢島真奈美

社会福祉法人品川総合福祉センター 令和二年度 基本方針・運営方針

令和二年度は次の基本方針をもとに、重要課題の解決に向けて法人経営を進めます。

一・基本方針

今年度は、現在の法人の重要課題を明らかにし、その解決に向け策定した令和元年度から三年間の中期経営計画の進行管理を的確に進め、その取組みを実効性のあるものにしていきます。

二・重要課題

中期経営計画の二年度目にあたり、法人全体の収支改善を最重要課題として、以下の三点に取り組みます。

①事業の利用調整が安定せず、介護報酬、給付費収入が伸び悩む一方で、人件費関連費用が増大し、各事業とも適正な収支バランスを確保することが難しくなっています。そのため、良質なサービス

提供に伴う加算の取得や利用調整の安定化による稼働率の向上等による収入の確保に努めるとともに、人件費関連費用、業務委託費等の低減化に向け創意工夫によるコスト削減対策を講じていきます。

②利用者サービスにおいては、利用者の人権への配慮、利用者特性の理解に基づいた支援と環境の提供、利用者の皆さんを中心に据えた支援を進めます。また、職員にはよ



みんなでよいドン！
(八潮中央保育園)

り専門性の高い支援と対人援助専門職としての人権意識や倫理観を教育していきます。

③人材の確保において、社会全般の労働人口減少による介護人材不足がさらに顕著となっています。そのような状況においても優良な人材を採用し、丁寧な育成、良い状況での定着に力を尽くします。

今年度も引き続きこれらの課題解決に取り組み、社会福祉法人としての永続性をさらに確かなものにしてまいります。

三・事業活動

①八潮南特別養護老人ホームとグループホームの指定管理継続に向け、十分な準備を行います。

②八潮中央保育園の改修を令和三年度に控え、その準備を整えます。

③品川区立心身障害者福祉会館の指定管理事業は、品川区と連携し、区民ニーズに対応した事業運営を進めます。

④移動支援従業者養成研修を円滑に運営します。

⑤荏原地区の障害者施設開設の準備を進めます。

⑥中延障害者計画相談支援事業所に加えて二か所目の事業所を開設します。

⑦中延在宅サービスセンタ―において共生型生活介護事業を適正に運営します。

⑧各事業とも利用者の高齢化、障害程度の重度化に対応するため、医療体制を強化します。

以上のとおり、今年度も品川区内において必要な福祉事業の拡充など、法人の理念に則り法人経営を進めてまいります。

赤い羽根共同募金

会長賞受賞

令和元年十二月二十三日

「第六十八回 東京都社会福祉大会」が行われました。

東京の社会福祉の発展に功績のあった社会福祉関係者を表彰し、優れた活動内容を紹介することにより、福祉活動の普及・推進を行い、誰もが安心して暮らせる社会の実現を図るものです。主催は東京都・東京都社会福祉協議会・東京都共同募金会。その中で、東京都共同募金会会長表彰を受賞する二十八団体を代表して、品川総合福祉センターが表彰状を受け取りました。



表彰状の他に、素敵
な風呂敷も記念品と
して頂きました



東京都共同募金会長表彰
受賞者を代表して、当法人
が受け取りました

員教育の一環として実施しています。毎年十月一日は、品川区内（大井町・旗の台・青物横丁）三ヶ所の駅頭で募金活動を行っています。また社会福祉施設としても募金を毎年欠かさず実施するなど、積極的に募金活動に取り組んでいます。今後も利用者の夢や思いを大切に、法人の理念でもある利用者本位のサービスを提供し、地域とともに地域の福祉力の向上と社会貢献活動のリーダー的な法人としてさらなる取り組みを実践してまいります。

令和元年度品川福祉保健従事者実践・研究発表会 中延特別養護老人ホーム 最優秀賞受賞！

令和二年二月十九日に「令和元年度、品川福祉保健従事者実践・研究発表会」が品川介護福祉専門学校の主催により品川区役所第三庁舎六階講堂で開催されました。

これは品川区福祉施設、事業所等で介護、福祉、保健看護等に携わる方が日々の現



藤さん、田鎖
加さん、
から名
右星さん

場での取り組み・研究成果などを発表する研究大会です。

当法人からは中延特別養護老人ホームが『選択できる生活をし、夜間入浴からはじまる自己決定』を発表し、当法人初となる最優秀賞に輝きました。

発表したチームは「主語は



最優秀賞をスタートに！
(※関連写真：一面)

入所者」「考え続けるチーム」「ネバーギブアップ」を大切にしてきました。ユニット型特養、介護業務の効率化が注目される中、中延特別養護老人ホームは従来型特養であっても、知恵と工夫を用いて決して効率化を先頭にはせずに、入所者の方々にとっての「居場所」となる事を、あきらめずに目指し考え続けてきました。

その成果である「最優秀賞」をゴールにするのではなく、スタートとして今後もチームで一枚岩となり歩み続けていきます。

サービス向上に関しての取り組みのご紹介

中延在宅サービスセンター

「意見箱の取り組み」

中延在宅サービスセンターでは、平成三十年度から定員を増やした結果、一日の利用者数が増え、プログラムの進行もあわただしさが目立ち始



この箱をダイルームに
おいています

めました。そこで、ご利用者の声を聞く機会を増やすために、ご意見箱をダイルームに設置したところ、平成三十年八月から令和元年十二月までに、延べ三十八件の投書を頂きました。投書は基本的に無記名です。例えば、「朝の体操をラジオ体操にすれば全員

参加できますので楽しくなると思います。ぜひよろしく。」
「私は大きな声が出ません。何度と同じ事を聞かれたり、はつきり話して下さいと職員に言われ傷つきます。」といったご意見を頂きました。

これらのご意見すべてに回答を掲示します。回答はご意見を職員会議で確認し、全職員で前向きな表現で回答を考えています。答えは必ずしも一つではありません。ひとつの小さな箱を通じて、職員がそれぞれの専門性を発揮して、回答を考えることが大きなサービス向上につながる

と考える職員一同で継続していきます。



職員一同で取り組んでいます！

八潮南グループホーム

「本位へ近づくための別ケア」

グループホーム八潮南では、昨年度より認知症ケアをテーマに、更なる職員のスキルアップを図るための取り組みを実施してきました。

「利用者の声、話に耳を傾ける。声かけの仕方。利用者主体（職員本位になっていないか）。職員同士の悩みを共有する。」を掲げ、職員一人ひとりが協力し合い、多角的にアンテナを張り巡らせることが出来るチーム

を目標としました。昨年は認知症についての知識の確認と勉強を行い、今年度は各ユニットで一名ずつ入居者を決定し、支援での悩みを挙げて



職員と一緒に体操の時間

もらい、職員が統一したケアができるように取り組みました。一つのユニットは、①声かけの頻度②疎外感を生みない環境作り③一対一での時間の創出（役割を持つてもらおう洗濯物を畳む、買い物に行く等）を実施しました。結果として様々な手伝いやイベントの参加に消極的だった方の自主性が高まりました。今後も統一したケアと、日頃の積み重ねで生活していく場としての安心感が持てるように、個別支援を継続していきます。

ボランティア紹介

～かもめ園（身体）の車椅子清掃 三嶋三郎様～



車椅子清掃ボランティア三嶋三郎様を紹介致します。かもめ園三階では毎月多くのボランティアさんが来て下さっています。アさんが来て下さっても一番多く来園されているボランティアさんです。



清掃し終わると
ピカピカです！

毎週日曜日の午後に来園され、三台から四台の車椅子を洗ったり磨いたりして綺麗にして下さっています。一年を通して暑い日も寒い日もいつもボランティアに出て掃除をして下さっているのので何度か屋内でい



利用者の皆さんとも気さくにお話して
くださいます。感謝しています！

かがですか？と伺ったところ「ここがいいんだ」とおっしゃり外気に触れながら一生懸命車いす清掃をされている姿に頭が下がります。食べこぼしの多いご利用者様もいらつしやり、座面がしばしば汚れがちですが、三嶋様が細かい所まで丁寧に清掃して下さいするため車椅子の清潔が保たれ利用者の皆さんから大変喜ばれています。いつも感謝の気持ちを込めてお茶をお出しした際には「ありがとうございます」と素敵な笑顔を見せて下さる三嶋様、今のかもめ園に欠かせない存在です。職員一同心より感謝申し上げます。

知的障害者（児）移動支援従業者養成研修を開催します



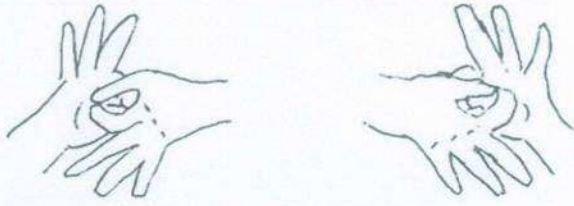
令和元年度より東京都の指定を受け、当法人の新規事業として「知的障害者移動支援従業者養成研修」を開講することになりました。この研修は三日間の通学形式で「ガイドヘルパーの制度と業務」「障害者（児）の福祉の制度とサービス」「ホームヘルプサービス概論」「ホームヘルパーの職業倫理」「知的障害者の疾病・障害の理解」「障害者（児）の心理」「移動支援の基礎知識」「移動支援に関わる技術」等の講義と演習を行います。

この研修を修了した方には、東京都知事の定める知的障害者移動支援従業者養成研修課程修了者として、修了証が発行されます。修了者は、知的障害者の移動支援サービスに従事することが出来ます。買い物に行ったり、映画を観たり、カラオケに行ったり、公園に遊びに行ったり。そんな社会生活として誰もが当たり前に行っている外出や余暇活動等社会参加を進める際に、支援を必要とする方に付き添い、本人が出来ないこと、苦手なことをお手伝いするのがガイドヘルパーの仕事です。令和元年度については、新型コロナウイルスの関係で延期となりましたが、令和二年度より開催します。日程は決まり次第、区報・会館ホームページ等に掲載します。問い合わせ先・品川区立心身障害者福祉会館 品川区地域活動支援センター
〇三―五七五〇―四九九六

デフリンピック ご存じですか？

「デフリンピック」はろう者のオリンピックとして、夏季大会は一九二四年フランス、冬季大会は一九四九年オーストリアで初めて開催されました。障害当事者であるろう者自身が運営する、ろう者のため

デフリンピックの手話表現



資料：デフリンピックの手話表現とロゴマーク

豆知識

による合図を視覚的に工夫する以外、オリンピックと同じルールです。
二〇二一年デフリンピックはブラジルで開催されます。

の国際的なスポーツ大会です。デフリンピックを運営する組織は国際ろう者スポーツ委員会です。現在の加盟国は百四カ国です。国際パラリンピック委員会が一九八九年に発足した当時は、国際ろう者スポーツ委員会も加盟していました。が、デフリンピックの獨創性（コミュニケーション全てが国際手話）を追求するため一九九五年に組織を離れ、パラリンピックにろう者が参加できない状況が続いています。競技はスタートの音や審判の声

しなふくの窓

このコーナーは、品川総合福祉センターで、普段は目に留まらないちよつとしたホッとなもの、**「窓」**を通して写真で紹介していくコーナーです。
今回は、本部の一階の多目的室の窓から見える緑道運河の桜を紹介いたします。窓の桜を眺めると、まるで「縁の桜の絵」のようです。桜の咲く頃の花冷えの日には、お弁当を食べながら、窓越しに見るお花見が最高です。



窓の枠が「縁の絵」のように、緑道公園の桜が綺麗です

オレンジカフェ紹介

認知症状があり、お仲間を作りたいご本人・ご家族・地域の皆様、気軽に相談ができる場です。認知症を知り、これからの生活を安心して過ごせるよう、ケアマネジャーがご相談に応じます。

☆コーヒー（飲み物）

一杯無料です。

日時／毎月第三水曜日十四時～十五時半

場所／品川総合福祉センター

一階ロビー喫茶コーナー

（品川区八潮五〇一）

連絡・お問い合わせ／電話

〇三三七九〇一四八三九

※新型コロナウイルス対策の関係で開催しない場合があります。